新時代のカタチ提案

○…エコール春の大見本市…○

目標上回る売上達成

エコール流通グループ（渡部秀嘉社長、東京都）、ERG・渡部社長（左より2人目）と中野見本市実行委員長（中央）ら実行委員

エコール事務機チェーン、エコール・ステイショナーズ・チェーンは、1月16、17日、東京・平和島の東京流通センターで、「伝統と革新が織りなす新時代のカタチ」をテーマに、「第122回エコール春の大見本市」を開催した。

初日は山手線・京浜東北線の停電による運転停止・遅延が発生するアクシデントに見舞われたが、午後からは来場数も増えてほぼ計画通りの1411店2236人が来場、目標を上回る売上高47億5000万円を達成した。

初日の開会式で、渡部社長は「1964年に始まった大見本市は今回で第122回目を数え、様々な伝統を受け継いできた。この伝統を革新しながら次代につなげていきたい。今回は特別企画として、『むかしの文具・紙製品』コーナーを新設、懐かしい興味深い商品を多数展示している。イベント館と共に集客のための仕掛けづくりになると思う。世の中に似たような商品が溢れている中で、いかに商品をアピールしていくかが重要。商品の性能・品質はもちろんのことだが、商品の歴史も重要なファクターとなり、時代の変化に合わせて進化した商品の魅力を伝えていきたい。今年の干支『丙午』は勢いとエネルギーに満ちた活動的な年となるといわれる。業界最初のこの大見本市で、ホップステップジャンプの最初の一歩を力強く踏み出し、スタートダッシュをかけて、ウマくいく年としたい。ECにはないリアルの展示会のメリットは、実際に商品を見て、触れて、試してもらい、お客様と新しい発見や感動を直に共有し、顔を合わせてのやりとりができるところ。今日一日、弊社社員も全力で販売店様のアテンドを行う。来場者の満足度を高め、後の商談につながる成果を上げたい」と挨拶。

多彩な商材を提案するイベント館

続いて、エコール賛助会・高津敏明幹事長（ニチバン社長）の祝辞、中野出穂見本市実行委員長（東京エコール専務）が開会宣言を行い、主催者と来賓によるテープカットで開会した。

展示会場には有力メーカー114社が春の商戦に向けて、新製品や売れ筋商品、提案商材を豊富に出展。さらに出展社横断のプロモーションとして「触って試せる商品展示」や「商品開発・製造の秘話を紹介した展示パネル」（新企画）を行い、販売促進につなげた。

新企画の特別コーナーでは、「むかしの文具・紙製品」と題して、大正から昭和中期にかけて取り扱っていた文具・紙製品や、当時のセールスが営業活動に使用していた商品見本の一部を紹介、来場者の注目を集めた。

注目のイベント館は、Fホール2階入口で「POP UP企画」を行い、シーズン性やトレンドに合った商材を、導入しやすいセットで提案。

また、「見て触って！話題の文具」エリアの「シール提案＆手帳Deco」コーナーでは、「クラフトパンチ日記」の体験型ワークショップと売れ筋の手帳回り商材を提案。

「未来を創る防災のカタチ」、「明日から使えるあの話・この商材」エリアでは、近年増えている地震や自然災害、サイバー攻撃の対策となる商材を提案、熱心に説明を聞く来場者の姿が目立った。

併催イベントのショートセミナーは文房具の魅力、SNS活用から防災まで、最新トレンドに沿った旬の講演テーマを、2日間で5本を用意、各回とも満員の盛況ぶりだった。

ジャンプフェスタにブース出展

○…ショウワノート

ショウワノート株式会社（片岸茂社長、東京都）は、12月20、21日、千葉の幕張メッセで開催された、ジャンプマンガの魅力が詰まった毎年恒例のビッグイベント「ジャンプフェスタ2025」にショウワノート（POMMOPブースを出展、会場限定のおみくじが人気で、多くの来場者を集めていた。

限定おみくじはおみくじカードとクリアカード入り。「ハイキュー!!」「新テニスの王子様」「銀魂」「黒子のバスケ」「怪獣8号」の作品を用意。「黒子のバスケ」では、「雨上がり」がテーマの新規描きおろしイラストを使用した限定おみくじが登場、人気を集めた。

会場限定のおみくじが人気のショウワノートのブース

3月5～8日に南港ATCで

文具女子博大阪

文具女子博実行委員会（日販セグモ株式会社、株式会社エムディーエス）は、3月5～8日の4日間、大阪市住之江区の大阪南港ATCホールで、文具の即売イベント「文具女子博ｉｎ大阪2026」を開催する。

開催テーマ「今日、どれにする？文具コーデ」のもと、文具を〝ファッションのように気分で選ぶ楽しさ〟を提案。筆記具・マスキングテープ・スタンプ・ノート・インクなど5万点以上の文具が集結する。さらに会場限定のイベントも多数予定している。

業界関連の出店ブランドは、エッグンワークス、カール事務器、学研ステイフル、呉竹、SASAGAWA、サンスター文具、サンビー、シヤチハタ、TAG STATIONERY、日本理化学工業、フエキ糊、マルアイ、マルマン、ミドリ、MIWAX、ヤマトなど。

筆記具の技術を電池材料分野へ

○…三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社（数原滋彦社長、東京都）は、11月18～20日日に名古屋市のウインクあいち（愛知県産業労働センター）で開催された「第66回電池討論会」で、現在、開発に取り組んでいる「ドライ電極」に関する研究成果を発表した。

ドライ電極のプロセスは、従来のリチウムイオン電池とは異なり溶剤を使用せず、また、電極作成時の乾燥工程を省くことができる、環境に優しくコスト削減にもつながる新たな技術として注目されている。

ピラボットに新商品

パイロットメタモインキを活用

温度で色が変わる新プロダクト「タイムベース」

株式会社パイロットコーポレーション（藤﨑文男社長、東京都）の未来創造実験室「PILABOT（ピラボット）」は、1月20日、東京・港区赤坂のベクトルラウンジで、新商品「TIME VASE（タイムベース）」のメディア体験会を開催した。

当日は、色の変化を体験できるデモンストレーションや、開発背景の紹介、実際の使用シーンを想定した体験展示を行い、〝待つ時間〟そのものを愉しむプロダクト体験を提供した。

未来創造室・古謝将史室長は「未来創造室は2023年7月に発足し、技術起点ではなく『価値起点』で企画を組み立て、遠い社会課題や流行よりもメンバー自身の日常の実感・疑問・ひらめきを起点にする姿勢を大切にしている。PILABOTの取り組みから新事業を生み出すことが目標であり、新商品もメンバー個人の生活の中で感じた想いが出発点となり開発している。価値をベースに企画を進めていった結果、既存の技術に再び行き着いた点も注目してほしい」と説明。

「TIME VASE」は同社独自の「温度で色が変わる」インキ技術と、伝統工芸・有田焼の融合により生まれた新しいインテリア。お湯を注いだ瞬間から色が変わり、時の移ろうさまを視覚的に堪能することができる。表面には、同社が独自に開発した温度変化でインキの色が変わるインキ「メタモカラー」を塗装し、有田焼の職人が一つひとつ作り上げた磁器と融合させ、「時の流れ」を視覚的に楽しめるインテリアとして誕生した。

キングジムに初の女性営業所長

広島所長の渡邊花帆さん

株式会社キングジム（木村美代子社長、東京都）初の女性拠点長として、渡邊花帆さんが広島営業所所長に就任した。

渡邊所長は岡山市出身。2017年にキングジムに入社し、大阪支店、東京量販部を経て広島営業所に配属。入社10年目で所長に就任した。

入社の動機については、「幼いころから文具店で見つけた筆記具やシール、メモ帳にワクワクする時間が好きだったことと、中学・高校は吹奏楽部、大学は体育会ヨット部など、部活動で学んだ経験を仕事に生かしたいという思いがあった。キングジムの〝自社商品にこだわったものづくり〟と〝新しいことに挑戦できる環境〟に魅力を感じ、入社を決めた」と話す。

また、仕事をするうえで大切にしていることは、「同行販売など現場で得た気づきや学びを水平展開し、次の提案に生かすことを心がけている」。

目指す姿については、「現場に近い立場で活動することを意識し、創造性を高め、少しでも新しい〝波〟を起こせるように精進していきたい」とし、現場力を重視する木村社長の「『凪に波を立てる』『現地現物現場力』という言葉には共感する部分が多い」と話す。

キングジムの「推し」は、「社員は個性豊かで温かい雰囲気なのが魅力。尊敬する身近な上司が、やりたいことを後押ししてくれる。営業所のメンバーも親切で協力的なので、大変助かっている」。

「推し」の商品は「『KITTA』。入社時にこの商品の発売情報を聞いたときに、ワクワクしたのを覚えている。ラインアップも拡充され、長く愛され続けている商品」と、自社商品に対する愛を語る。